

酒田っ子すくすく子育て講座 第149回

東北公益文科大学 名誉教授 國眼眞理子 先生

甘えを受けとめて

新学期が始まってひと月が経ちました。新しい環境に、そろそろ慣れてきた子、反対になかなかなじみずらに苦勞している子、それぞれかもしれません。

一見すると、子どもは大人よりもすんなりと新しい環境に適応するように見えますが、その子なりのペースを獲得するには、かなりのエネルギーを要します。保育園や幼稚園に入園した、小学校に入学したなどの全く新しい環境に適応するときだけではなく、同じ園・学校であっても、担当の先生が変わった、クラス替えがあった、学年が上がって期待される行動が変化したなどの対応にエネルギーを使っているものもです。

ことに小学生ともなると、周りの人の期待に応じた行動をするようになり、その緊張に対する充電が必要です。小学校3年生になったトモちゃん。同級生や年下の子の前では

甘えたそぶりは決して見せませんが、このところ、家ではママにべったりです。「いや、うちの子はしっかりしているから」と安心できません。ときに「充電不足」のまま頑張りすぎてしまうことがあるからです。

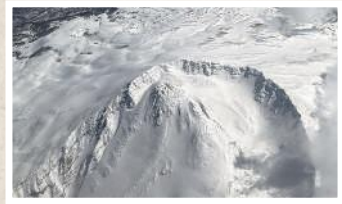
「もう〇歳なのに」「もう〇年生でしょ」と、甘えたい気持ちや行動を遮つていないでしょうか。環境が大きく変わる今の時期に「ねえねえ、ママ(パパ)」としきりに話しかけてきたり、体を寄せてきたりしたときはまさに充電どきです。小学校3年生、4年生ぐらいになっても、いちばん身近にいる人の、子どものたわいもない話に耳を傾ける、ときに体ごと甘えを受け入れるという姿勢が、心と体の成長を促します。

甘えは自立と違って、好ましくないと思なされがちですが、自立は甘えが満たされてこそ、果たされるようです。

校歌の中のジオパーク

第136回 閩観光物産課にぎわい創出事業係
☎26-5759

日本海と大地がつくる 水と命の循環
鳥海山・飛島ジオパーク
リレーコラム



▲空から見る鳥海山の山頂。この山の美しさは、地元の小中学校だけでなく、秋田県歌や秋田県立横手高等学校の校歌にも歌われています。

新学期が始まってほぼ1か月が経ちました。新しい学校に入学した方も、学校生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。日本のほとんどの小中学校には校歌があります。校歌には、歌を通じて児童生徒や先生たちの気持ちを一つにまとめ、その連帯感を強める役目を持っていますが、この校歌の歌詞の中には故郷のさまざまな魅力、つまりジオパークの見どころが隠れています。

鳥海山・飛島ジオパークのエリア内にある62の小中学校の校歌の歌詞を調べたところ「鳥海」「鳥海山」という言葉が登場する学校は約80%に達しました。これらの校歌の中では、鳥海山は故郷を代表する山であると同時に、住民の憧れであり、未来への希望の象徴として表現されていることが多いですが、中には「鳥海山に追いつき、追い越

す位に大きく成長してほしい」という願いを込めたものもあります。また校歌の歌詞には海や川、山といった地球の活動が長い年月をかけてつくり出した景観や、風や雲といった季節を感じさせる言葉、さらには鳥や魚などの生き物が多く登場し、歌を通じて児童生徒にふるさとを素晴らしい情景を伝えようとしています。

今まさに校歌を覚えている人、よく校歌を歌っている人、そして校歌を歌う機会がほとんどない人、母校の校歌の歌詞を思い起こしてみませんか？そこにはきっと、ジオパークの見どころがたくさん隠れています。



一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク 推進協議会事務局 次長兼主任研究員 大野 希一氏